

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 4 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502934		
法人名	有限会社 ひよし		
事業所名	グループホームひよし		
所在地	〒721-0972 福山市日吉台3丁目13番7号 (電話) (084) 948-6117		
自己評価作成日	平成23年6月	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年1月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームひよしは日吉台という静かな住宅街にあります。開設して8年目になりました。敷地内には草木や花がたくさんあり、季節の移ろいを楽しみながら穏やかに生活しております。理念に掲げているように家庭的な雰囲気を大切に、生き生きと笑顔いっぱいの暮らしができるよう創意工夫を心がけて日常生活のお手伝いをしています。地域の協力体制、ボランティアさんの協力も充実しております。行事の際にもお力添えを頂き、心に残りものとなっています。運営推進会議を通して今後も地域の方に開かれた事業所としての役割やボランティアの受け入れ体制にも力を入れ、地域との関係づくりをよりおしすすめていきたいと思ひます。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームひよし（以下、ホーム）は、市内東部の高台にある閑静な住宅街の一角にあり、ホームのベランダから見える町並みの夜景が素晴らしいです。庭には、四季折々の花が植えられ、季節ごとに野菜の収穫祭を催されています。入居者が、地域の一人として孤立しない暮らしが支援できるよう、ホームでは地域との関わりを大切にされています。地元の入居者が多いことから、地域の協力関係も築きやすい環境が整えられています。また、町内の幼稚園や中学校、町内会の行事への参加や他の事業所への招待を通じて交流が図られています。ボランティアの受け入れも積極的に行い、入居者にとってリズム感のある生活となるよう取り組まれています。ホームでは、レクリエーションを充実させるためにも、ユニット間で職員を交代するなど工夫されています。温かな雰囲気の中で、笑顔とほのぼのの感とした感じを大切にした支援を、職員全員で工夫しながら実践されています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（1ユニット）					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念の中に地域密着サービスの理念は組み込まれていないが、管理者と職員は理念を共有して常に振り返り、実践している。	ホーム理念のほかに、ユニットごとで職員が話し合い作成した理念・目標を掲げ、見やすい場所に掲示されています。また、年1回ユニット会議で理念の振り返りが行われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	夏祭りの参加や地域の幼稚園児の交流などホームを拠点とし、交流の場を儲け、日常的に呼びかけている。	入居者は地元の人が多く、散歩や買い物で知人と出会う時間帯に合わせて出かけるなど、これまでの繋がりが途切れないよう工夫されています。また、町内会に加入し、地域の一員として祭りや文化祭・防災訓練などの行事に積極的に参加されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所にキャラバンメイトがおり、要請に応じて地域住民に向けて認知症になっても地域で楽しく暮らす街づくりの推進をはかっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎年2回の消防訓練の際の地域住民の協力状況の報告や外部評価の結果報告を議題とし、サービスの改善・向上につなげている	会議は定期的に家族・地域代表・地域包括支援センター・市職員の参加を得て、毎回12人くらいで行われています。出席者からは、地域の協力が得られるような議題をあげてはどうかなどの意見が出され、行事案内、協力要請、報告が主な内容として進められています。また、ホームの新たな取り組みを随時報告し、事業への理解と協力を得て、助言をもらう場ともなっています。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議以外でも地域のネットワークづくりの会に参加し、地域住民の一員として地域で困ったことがあれば、共に協力できることはないか、市の職員・包括支援センターの職員・近隣の事業所職員があつまり、定期的に地域力を高める話し合いを行っている。	市担当者とは、日常的に業務の相談を通して連携を取り、周辺の他の事業所と共に立ちあげた「小地域ネットワークづくりの会」にも参加が得られています。実施にあたっては、助成金を受けるなどして、協力関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>禁止の対象項目を事業所内研修で話し合いスタッフ間で共通の理解に努めている。また施設では身体拘束廃止宣言を掲げ、日々身体拘束をしないケアに努めている。</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルをいつでも手にとって閲覧できるように、配置場所を工夫されています。職員研修で身体拘束をしないケアについて話し合ったり、不適切なケアの事例について職員アンケートを実施し、各自が日常のケアを振り返ったりされています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所内研修や外部研修に参加し、参加していないスタッフと共に学ぶ機会を持ち取り組んでいる。スタッフのストレスからの蓄積や配慮不足からくる自施設の現状を全員で考える機会を持ち日々の業務に活かしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修に参加した職員が勉強会の場で発表をし学ぶ機会を持つようにしている。常時相談には応じているが、現在希望されるか方はいない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には見学を通じて案内し、入居時に関わる相談に対して説明している。不安や疑問に関してもらい所持のみならず、電話相談を随時受付しをし、家族の希望や要望に近づけるよう努力している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談・苦情の窓口を設け、契約の際には説明をしている。また小さなことでも遠慮なく言うていただけるように家族とのコミュニケーションを図るよう面会時では毎月の様子を記録を参照しながらお伝えしている</p>	<p>月1回は家族が訪問しており、職員担当者と話し合う機会があります。入居者や家族からの希望・意見は申し送りノートに記載し、職員全員が共有できるようになっています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員間で疑問や提案などの意見を会議で取り上げ、検討している。特に外部からのボランティア受け入れ体制は個人からの意見や提案から全体の運営として実現し、継続していくよう努力している</p>	<p>月2回開催されるユニット会議では、職員と管理者が意見交換を行い、話し合いで改善に取り組む体制が整えられています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>業務的な仕事の繰り返しでマンネリ化を防ぐ為にも、業務と介護の違いの説明や事例検討・介護技術勉強会を行っている。各自が向上心を持って仕事に取り組めるよう施設内勉強会などで発表の場を提供し、個人のスキルアップから全体の質の向上に向けて取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内にとどまらず、外部研修に参加するよう取り組んでいる。また勤務時間内で可能な時間をつくり、介護技術の講習を行い、日々の介護に活かされている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他施設開催の勉強会に参加している。また近隣の同業者が集まり、地域住民の一員として何かできることはないか、などネットワークづくりに力を入れ、定期的な話し合いの場に参加している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前には必ず、本人・家族に施設内見学をお願いしている。ホームの雰囲気を感じていただくことで、不安の解消や新たな要望などに応えることができ、入居前にコミュニケーションをとる事で入居時に安心感を確保でき、スムーズに入居できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居後は家族も不安である為、電話や訪問時など日常生活の様子をお伝えしている。スタッフが状況をお伝えすることで安心感をもっていただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族関係や経済状況・家族の思いを把握したうえで、優先順位を決めている。在宅サービスを利用されていた方には担当ケアマネの意見をお伺いし判断している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>暮らしをともに支えあうもの同士としてできることに注目し、孤立しないよう同じ人ばかりに関わらないようにしている。趣味や特技を活かし、スタッフが間に入ってお互いに楽しめるようコミュニケーションに努めている</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時には近況を詳しくお伝えし、意見交換をするなどの配慮をしている。また行事の際には参加を呼びかけ、ともに関係を断ち切らないよう努めている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域でお世話になった方など、今までと変わらぬお付き合いができるよう電話や手紙の取り次ぎや、自由な訪問など家族にも伝え、協力していただいている。</p>	<p>入居者の希望で、知人などへの手紙や年賀状を書かれています。ホームへ自由に訪問できるように声かけを行うなど、雰囲気づくりを心がけておられます。また、知人への電話では、職員が入居者に代わり本人の思いを伝えられています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	できる事・好きなことの支援や孤立しないよう外出に誘ったり、趣味や特技の披露をすることで共有の時間をともにもち、会話やコミュニケーションの幅を広げるような工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院での生活や他施設を希望されることがあっても、気軽にいつでも遊びに来てくれるよう普段の生活から何でも話していただけのような関係づくりを心がけている。家族の思いやニーズを理解し、常時相談に応じる体制は受け付けている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中からコミュニケーションを通じて本人の思いを抽出し、介護や朝の申し送りで情報交換をしている。本人の思いやこだわりを尊重したプランづくりに努めている。聞き取り困難な方については過去の生活歴や情報を参考にしながら普段の関わりの中でその人にとっての意向を検討している	日常会話の中から入居者の思いや意向を聞き取り、朝の申し送り時に職員間で情報交換し関わり方の統一を図っておられます。また、意思表示が難しい入居者には、過去の生活歴や家族からの聞き取った内容を参考にし、職員間で意見交換を行いながら、意向を把握するよう努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や以前利用していた介護従事者から情報収集し、普段の関わりの中から出来ること・好きなことの把握に努め、日々の個別援助に努めている		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人別のチェック表の記載や介護記録などを参照にし、毎日の申し送りで情報の共有を図っている。また精神的な悩みにも心を傾け、本人の思いを理解するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の要望や本人の思いを十分に反映させたプランづくりを心掛けている。好きなこと・出来ることに目を向け、趣味の継続や生活全般で安心して暮らせるような工夫や介護の引き出しをたくさん持てるよう努めている</p>	<p>職員全員が関わるよう、本人・家族から出された希望や要望・意見を職員間で情報共有されています。3か月ごとのモニタリング、6か月ごとの再アセスメントを通してまとめ、介護計画を作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日の記録は5W1Hが明確にできるよう努めている。家族にもだれもが一目見て日々の状況が説明できるよう、関わり方の工夫や介護計画の見直しに活かしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>事業所の独自のサービスで送迎支援を行っている。歯科受診や眼科受診などで治療が長引き、頻度が多く、家族が対応で着ない場合もあるが必要に応じて家族に協力を求め、柔軟な対応を心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近くにスーパーや書店が多いことから買い物は唯一の楽しみである利用者さんが多い。ボランティアセンターの登録で週1単位で趣味の継続も可能な利用者さんが増え、豊かな人生を送れるよう努めている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>認知症専門医の継続受診や往診対応の提携病院など、本人・家族の希望や要望はお聞きし、適宜な医療を受けられるようにしている。家族で受診の可能な方については家族に付き添いをお願いしている。</p>	<p>主治医は、本人と家族の意向に添って決められています。これまでのかかりつけ医を継続して受診する入居者や、入居後にホームが提携する病院へ受診する入居者もいます。通院への付き添いに職員が対応することもあり、本人が適切な医療が受けられるよう配慮されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は看護の視点でひとり一人の利用者の健康状態を把握し、医療機関との連携や家族にいつでも閲覧できるように記録にも力を入れている。介護・看護職員の壁はなく、主治医の判断のもと適切な受診が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院決定の際にはホームでの様子や情報を詳しくお伝えし、混乱や不明な点などないようまとめたものをお渡ししている。洗濯物の支援やお見舞いなど入居者と一緒に訪問し、今までの関係を大切に配慮を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族・本人の思いを尊重している。回復の見込みがないと判断された場合には家族を交え、担当者会議を行い、介護・医療で出来ることをチーム全体で共有する場を設け、共に協力体制できるよう努めている。また家族の気持ちの変化にも充分配慮し、付案や気持ちを受け入れる体制(相談)を常時受け付けている。	ホームでは、看取りの経験があります。重度化した場合は、本人・家族・医師を含めた関係者会議を開き「自然に、痛みを軽減して穏やかに見送る」ことについて意思確認が行われています。また、職員にもその都度説明を行い、家族の協力を得ながら、常時受入れ体制を整えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを用意しており、応急処置の研修にも参加している。小さなことでも木になることは自己判断せず、管理者・主任・看護師に報告・連絡・相談の体制を取っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防・避難訓練には毎回地域住民の協力を呼びかけている。年2回の訓練では消防隊員のアドバイスを必ず導入し日ごろの備えから火事を起こさないよう充分注意し、取り組んでいる。	ホームで想定される災害は、地震と火災です。年2回、ホーム独自で訓練を実施し、実施前には地域のゴミステーションの掲示板で、近隣住民への参加を呼びかけられています。ホームでは夜間時に起こる災害について、近隣住民に移動介護等の協力の呼びかけをされています。また、町内の防災訓練にも入居者と共に参加されています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	“不適切なケア”を考える機会を持ち、スタッフ間で日々のケアを振り返る場を設け、お互いが注意し合えるようなチームであるような配慮を心がけるようにしている。	ユニット会議で、日々の支援について振り返る機会を設けています。ホーム職員の年齢層が幅広く、お互いにそれぞれの知識や経験を活かしながら、声かけや注意し合える関係を築いておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いが思うように言えない方もいらっしゃるし、思いを引き出せるよう、1対1で話ができるような環境設定を心がけている。本人の意思を尊重し、無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食欲不振な方・入浴拒否される方などさまざまだが、時間や形態にこだわらない介護を心がけている。本人のペースや気分を大事にし、要望をその都度合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧品やヘアカラーを希望される方もいらっしゃるし、希望に応じている。また思い出の洋服を着たり、アクセサリーを身につけるなど何時までもおしゃれを楽しむことができるよう本人の希望に添えるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人の出来ることを把握しながら、簡単な下ごしらえをお願いしている。食器洗いやお盆・お膳ふきなど片付けなども職員と一緒にやっている	献立は立てず、入居者の要望や一緒に買い物へ出かけた時のその日の食材の状況等で、臨機応変にメニューを決めておられます。調理の下ごしらえや片付けができる入居者が多いため、全員で食事を作ることを大切にされています。入居者と職員が同じテーブルで食事をし、楽しく家庭的な雰囲気があります。また、収穫祭を開き、くわいやかぼちゃ、柿など旬の食材をホームで味わう機会もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量が少ない方に関して量を減らしたり、野菜を多く取り入れたメニューを意識している。食事チェック表を毎日つけ、水分や食事摂取量を把握している。水分の少ない方については、お茶以外の飲み物を提供し、摂取量をキープしている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>ひとり一人の口腔状態を把握し、朝・夕の食後は口腔ケアを行っている。またぎしの不具合がある時は歯科受診にて指導を受けている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失敗の頻度を少なくするための声かけや、排泄チェック表にてリズムを把握し、誘導・介助を行っている。失敗があってもトイレでの排泄習慣の継続を促すため、職員が付き添い、指示誘導などの援助が行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促すような声かけや、歩くついでにトイレに寄るなど誘導を実践しながら支援されています。また、便座に座る方法について勉強会を開き、入居者がトイレで排泄できるよう支援されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄委員会を設置し、ユニット会議で検討している。薬に頼らず出来ることはないか、排泄リズムの把握や食事の工夫・便座への座り方など勉強会を通して実践できている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>冬季は寝る前に入りたいと希望される方が多く、夜間入浴を実践してきたが、暖かくなるにつれて夕方入浴が定着してきた。入浴拒否される方については気持ちを優先し、スタッフの都合で強制せず、楽しく入浴していただけるよう音楽を流しリラックスできるような工夫もしている。</p>	<p>入居者が楽しんで入浴できるよう、入浴剤を利用する、音楽を流し歌いながら入るなど、本人の状況に合せながら工夫されています。また、入浴時間を午後からおやつ時間後の夕方に変更するなどして、臨機応変に対応されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室は個室でプライバシーの確保がなされている。昼寝の確保や自室でゆっくりと過ごせるよう、空調や寝具などにも季節に応じて配慮し、自分だけの空間と時間で落ち着いて過ごして頂けるよう援助している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳やお薬情報を常置しており、いつでも確認できるようファイリングしている。薬の変更があっても様子観察にて症状の変化を常に主治医に伝えられるよう援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	どんなことが好きなのか、今までの生活歴など背景を考えた上、役割ごとや生きがい作りなど具体的にプランに盛り込み、楽しく過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候、その日の気分にもよるが、個別援助として自分の好きなところへ好きな時に行けるよう要望を聞き、可能であればドライブや近隣の散歩に同行している。必要なものの購入の希望が多くスーパーへ買い物に出かける際には必ず、スタッフが同行し、地域へ出て行く機械を常に設けている。	アセスメント時に、入居者の馴染みの場所や行きたい所を聞き取り、要望に応えられるよう取り組まれています。入居者の体調に配慮しながら、天気の良い日には遠方へドライブに出かけておられます。散歩は、近隣住民に出会える時間帯に出かけたり、スーパーマーケットへの買い物にも入居者と出かけたたり工夫をし、外部との交流が絶えないよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額管理ができる方については家族の了解を得て、小遣い程度の管理で希望の品の購入をしている。自己管理のできない方については施設でお預かりし、買い物意同行で希望の品の購入をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を希望される方については、希望される方については希望に応じてダイヤルしたり、切手の購入やポストに投函している。いつでもやり取りができるよう家族からの手紙も常時受け付けている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じ塗り絵や貼り絵でリビングの壁を飾ったり、季節の花を食卓に飾るなど、生活空間の変化にも入居者と一緒に作業を行っている。また居住空間の掃除を一緒にすることで清潔にいつも気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	リビングや廊下には、フラワーセラピーのボランティアが作成した花や、入居者全員で作った貼り絵や塗り絵が飾られ、季節感あふれる空間となっています。掘りごたつがある畳敷きのスペースでは、裁縫が好きな入居者が雑巾やクッションを作られています。トイレの場所が一目でわかるように、誘導テープを床に貼り付け、ドアにも大きく表示するなど工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファで好きな時間にくつろいだり、自分の好きな場所で好きなことを自由にしていただけるよう家具や電化製品の配置などにも安全かつ自由に使用できるよう、位置などの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していた家具や思い出の写真などの持ち込みをお願いしている。使い慣れたものや自分のお気に入りの品などいつでも使用できるような環境設定を配慮し、これからの自分の時間と空間を大切に過ごしていただけるような生活の場になるよう心がけている。	入居者は、仏壇や使い慣れた筆筒、ドレッサー、思い出の写真などを持ち込まれています。ベッドが苦手な入居者の部屋は、布団で眠れるようフロアマットが敷かれています。どの居室も整理整頓され、過ごしやすい空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室には写真や文字を大きく貼り付けて一目見て分かり易くしている。行きたい時に自分で認識できる環境の工夫や個別援助計画に基づいてスタッフ間で情報を共有し、食事・入浴・排泄には特に力を入れている。		

V アウトカム項目（1ユニット）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（2ユニット）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を根幹とし、ユニット理念を反映させ日々のケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	敬老会・地域の幼稚園との交流・町内清掃等にも参加している。 施設行事の夏祭りにおいても地域の方々の多くの参加が得られた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会に入会することもできた為、今後はもっと地域の方に近付けることを期待し、集いの場として『コミュニティー広場』を造成中。その場において無理なく認知症の人の理解や支援の方法を伝えていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、取組み状況を公表・報告している。 新たな取組みについても相談し意見を頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議にてサービスの内容、取組みを伝えている。 今後も助言を受けながらサービス向上に活かしたい。	日常的には、市担当者に業務の相談を通して連携を図り、周辺の事業所と共に立ち上げた「小地域ネットワークづくりの会」への参加を得、実施に当たっては助成金の交付を受けるなどして、協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践	日中は玄関に施錠することなく解放されている。 身体拘束についても、勉強会や資料回覧などにより理解され身体拘束をしないケアが行われている。		
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修へ参加し、学んだことをスタッフ間で共有、日々のケアにおいてスタッフ同志注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	近日まで利用者さんに成年後見制度を利用されている方が居られ、身近で学ぶことができていた。今後も研修参加等 学ぶ機会を大切にしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族の方が納得されるまで時間をかけて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や、面会時等、随時 意見・要望をお聞きするよう努め、運営に反映させている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>提案があれば、日常の会話やミーティング等、いつでも聞く機会が設けられ反映されている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>労務士の助言により職員個々が、やりがいを持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>希望する研修や講演会参加が積極的に行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他の事業所とスタッフ交流会や勉強会相互施設の訪問実習などの活動を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人さんの思いを十分に聴けるようコミュニケーションを取り安心して生活が送れるよう関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の要望など、しっかりお聞きし、情報交換も行いながらより良い関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人・家族より状況・状態をしっかりお聞きし、必要な支援を分析。施設での生活形態等もお伝えしたうえで入所の適否を決定している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家事等すべての日常生活において、共に助け合う関係作りが築けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時等に本人さんの状態を詳しくお伝えし、介護記録なども見ていただいた上で、色々と意見交換を行い良い関係が気付けられるように努めている。また家族の絆を大切にする為にも遠方に住まれている家族との文通支援も行われている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>御家族の協力もあり、関係継続の支援が行われている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握した上で、合同活動・共同作業の支援を行い、共に支えあいながらの生活環境が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅生活に復帰された方は無く施設同士の連携はある。入院の為、退所された方にはお見舞いという方法で関係が続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や仕種などから本人の希望・意向を把握し、ミーティングにて情報交換を行い本人さんの「こだわり」を大切にケアプランになっている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族から情報収集した生活環境や生活歴を参考にしている。また、かかりつけ医・居宅のケアマネ等にも情報の提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人別のチェック表、介護記録などを参考に申し送りがされ、身体状態などの現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族からの意向を大切にし アセスメント・モニタリングに基づきユニット会議(担当者会議)にて検討 介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録やチェック表を記入し、日々の申し送り、またユニット会議にて情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホームの特性を活かし、職員体制が確保されている為、その時々要望に柔軟に応じることが可能。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域、またボランティアの方々の協力を得ながら楽しみのある暮らしが送れるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>往診対応の病院と連携が図られているが、本人の希望・家族の意向も大切に受診同行も支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	施設の看護職員も利用者の状態把握はできているが、かかりつけ医の看護師も気軽に相談に応じて下さる。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には定期的にお見舞いに行き、本人・家族の意向を聞きながら担当の医師、看護師との連携を密にしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化した場合など「終末期における対応についての同意書」にて、グループホームで可能な対応を説明し、本人・家族の希望される対応などについても、お話を伺っている。又、夜間の往診・訪問看護も受けられる体制となっている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	外部研修を受けた者が、施設内の勉強会において発表し内容を共有している。また、緊急時対応マニュアルをすぐに見られる場所に置くなどの配慮はされているが、すべての職員が定期的な訓練を行えているとは言えない。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	施設では年2回の防災訓練が行われており地域の方々の参加も得られている。自治体などの訓練にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念「人間としての尊厳」に基づき、個人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多くとり、思いや希望が表しやすい環境づくりを心がけ、ゆっくと傾聴することにより自己解決ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活の場としての流れはあるが、本人の希望・ペースを尊重し、その日の日程の変更も可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容院の訪問があり、髪型を変えたり、毛染めをされたり、おしゃれを楽しまれている。また化粧品や衣類・靴なども一緒に買い物に行き本人さんが選ばれたものを購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物・調理・食器洗い・片付け等、出来ることは何でも参加していただき、職員と一緒に食事をすることで会話を楽しみながらの楽しいひと時となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立表に詳しく材料を記録することによりバランスの良い食事が提供されている。また食事・水分の摂取量が個人別にチェックされている為、必要摂取量が確保されている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>声かけ・誘導の徹底、定期的な義歯の消毒、能力に応じ洗口液にて口腔内を洗浄するなど、個別支援を行っている。口腔ケアチェック表を記入することにより日々清潔が保たれている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、個人に合わせた声かけ、誘導を行い自立に向けた支援を行っている。また、昼夜でオムツの種類を変える等、考慮している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事メニューの工夫・家事やレクリエーション参加による適度な運動、水分摂取量のチェック、また嚥下が困難な方には、トロミをつける。ドリンクゼリーを飲んでいただくなどの個々に応じた予防を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お風呂嫌いな方でも三日に一回は、入浴・洗髪をお願いしているが、出来るだけ本人の希望に添うようになっている。多種の入浴剤を使用する他、男女でシャンプーを変える等 入浴を楽しんでいただけるよう考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	生活習慣継続の為、自室はベッド使用か和式生活かを選んでいただいている。また、本人の馴染みの寝具を持参して頂くことにより、お昼寝や夜間も快眠されるよう配慮している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	常時、服薬説明書が備えてあり、いつでも確認可能。服薬チェック・バイタルチェックを記録することにより症状の変化が確認される。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	個々の趣味や、生きがい、昔やっていたことや、それに近い事ができる場面を作り、自信回復へとつなげ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	可能な限り希望に添い散歩やドライブ・買い物に同行している。遠方への外出は家族とされている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	小額所持されている方々もいらっしゃるが、本人・家族の希望により、買い物・受診時などは施設で管理しているお小遣いにて対応している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族より了解が得られている方は、いつでも電話ができる。自室にてゆっくりお話しを楽しまれる方もあり、また、文通をされている方もおられる。</p>	/	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭的な雰囲気を大切にし、混乱を招くような刺激がないよう工夫している。又、清潔が保たれた空間で居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	/	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>広いリビングには寛げるソファー 冬季には掘りコタツにもなる和室 椅子も多くある為、それぞれが思い思いにひと時を過ごされている。</p>	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個人差はあるが、出来るだけ使い慣れた物を持参して頂いている為、仏壇・鏡台・本棚など馴染みの品、大切な品物が居室にあり、個性の生かされた居心地良く過ごせる空間が出来ている。</p>	/	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各室ドアに写真や文字を目印としてつける。また必要な箇所に滑り止め・手摺り・踏み台等を設置することにより、安心して自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	/	

V アウトカム項目（2ユニット）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひよし

作成日 平成 24 年 5 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあい 近隣住民が認知症を持つ, 高齢者への理解をさらに深 める事ができるよう, また ホームが地域の交流の発信 の場となるような地域との つながりが求められる。	・小松の丘整備の実現 ・地域とつなぐ, 家族 とつなぐ	・年間行事を通じ, ホー ムへの招待や施設見学会 の開催 ・小松の丘が地域住民の 交流の場となるようなつ ながりの確保	H24. 4月 ～ H25. 3月
2	35	災害対策 地域住民の協力を得て訓練 を行うなど地域の中でホー ムの存在感を高める事が必 要。	・地域住民の方の参加 の定着 ・近隣の事業所間で助 け合う体制の確保	・早めの訓練実施のお知 らせで協力体制や人数の 確保をしていく。	H24. 4月 ～ H25. 3月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。